

審査総評

図画の部

農業に関する多様な表し方

第48回となった「堺市小学生夏休み児童作品コンクール」図画の部は「農業に関するもの」と「ごはん・お米とわたし」という2つのテーマで、578点もの応募がありました。今回も、テーマをもとに子どもたちが見たり体験したりしたこと、考えたことなどを絵に表し、多数の作品が寄せられました。

今回、寄せられた作品を見ている中で、収穫したり、ごはんを食べたりする姿だけではなく、農業に携わる方々の姿や表情、ごはんを食べる前の姿など、子どもたちの多様な視点やとらえ方で自身の作品を表していたことが印象的でした。

子どもたちは自分の見たことや体験したことなどをもとに、感じたことを表現しようとします。今回の作品を見ていると、応募してきた子どもたちそれぞれが、自分が今までおじいちゃんやおばあちゃんに聞いたり、教えてもらったことの中から絵に表していて、家族やお家でずっと大切にしてきたことだろうなということが伝わりました。また、農業を営む方々が一番うれしいであろう、大切にしてきた作物を収穫した時の喜びの表情。そしてその収穫されたものが食卓にのり、それをおいしそうだと喜んだり、食べて満足したりしているときの表情。そういった、作る側と食べる側のそれぞれの姿が絵になって表れてきたことをうれしく思います。また堺市には少ないですが、牛舎の絵などもあり、農業の絵のとらえ方が子どもたちの中で広がっていることにうれしさを感じました。

これからも、自分の思いや感じたこと、考えたことを大切に絵に表すことを何より描いている皆さん一人ひとりが大切にしてほしいと思います。



▲習字の部の審査

習字の部

毛筆ならではの表現を大切に

毛筆の作品は、紙に鉛筆で書くのとは違い、消しゴムが使えません。つまり、途中で書き直しができない分、一字一画に神経を集中させて書かなければなりません。その時間、きっと蟬の合唱も聞こえないくらい懸命に紙に向かっていただことと思います。また、多くの時間を費やして練習されたことと思います。

第48回目となる本コンクールに出品された作品は、児童一人ひとりの努力の結晶であり、当然いづれも力作ぞろいで、判断の難しい審査となりました。審査のベースとなるものは、点画の書き方や穂先の動きに注意して書いているか、文字の大きさや配列を意識して書いているか等です。厳正かつ公正な審査の結果、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。

さて、学校にもデジタルツールが導入され、手書きの必要性を問う声があります。一方、本コンクールへは17,784点の応募がありました。この夏、習字に熱中した小学生がたくさんいて、毛筆ならではの表現を大切に思っているということに他なりません。

どうか、今後もいっそう練習に励んでくれることを期待しています。



▲図画の部の審査

◇審査員名◇ (順不同)

堺市立茶山台小学校 校長

堺市立深井西小学校 教頭

日展会友・神戸女学院大学講師

日本書芸院審査員・教育書道社理事

堺市書道連盟理事

堺市立美原西小学校 校長

堺市立福泉上小学校 校長

芳賀敬子

辻佐和子

田端芝蘭

西尾曹溥

酒井冬石

田中圭一

那賀典仁